

<指導の実際>

①教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・R5年度さいたま市学習状況調査 生活習慣に関するアンケートより

○児童のアンケートデータの必要部分を抽出し分析することで児童の実態をつかみ、単元全体の指導観やこの授業を通した目指すべき児童像を明確にすることができた。

●授業アンケート入力時間を確保し、毎授業ごとの意欲・主体性を見取りながら授業を展開していけるようにしていきたい。気づきや入力の書き込みには授業に生かせるようなものをまだ記入できないという課題はあるが、3年生以降の有効な気づきの集積に生かせるように継続して取り組ませるようにしていきたいと感じた。

②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



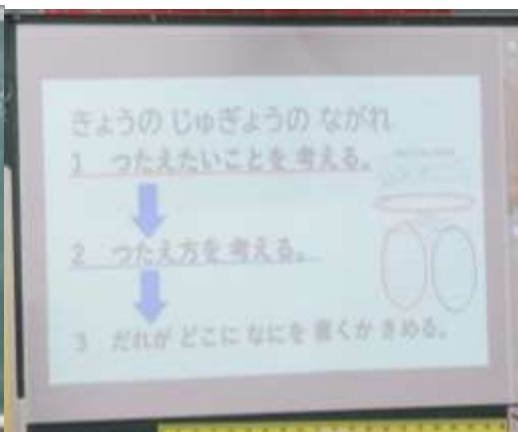
手だて② 気づきを促す言葉かけの工夫

自分たちの作成したもののよいところ探しを通して、今回のまとめの「どこが」「どのように」有効だったのかを問い直し、価値づけることで、あらたな気づきを児童に再確認してもらうことができた。内容に迫れるような気づきをどのような言葉かけで促すことができるのかは課題。

手だて④ グループ活動の設定

発表の聞き手を明確にしてグループで話し合い活動を行うことで、相手のことを考えたまとめ方や話し方を考えねばならぬことに気づき、話し合い、発表することができた。

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

- ・データの利活用ということで、昨年度1年生のときにとった学習状況調査の生活習慣のアンケートを活用した。「自尊意識」「地域との関わり」の結果を踏まえて授業を考えた。
- ・児童の「気づき」を大切に授業を展開していった。前時までに行ってきた見学の振り返りもグループごとの発表も体験してきたことなので体験をもとに児童の「気づき」を広げていけたらいいなという思いで授業を展開した。
- ・子どもたちの「気づき」を促せるよう、教師の声掛けに気を付けた。
- ・子どもたちはグループごとの発表の体験が一番近い体験だったことから話し方に視線が行きがちだった。どのように大きな紙にまとめればよかったのかというまとめ方に注目させることが難しかった。

研究協議(○成果 ●課題)

- 前授業でやった付箋が自尊意識を高める工夫としてよかった。
- 1年生に知らせることで意欲が高まり、深い学びに繋がると思った。
- 実態分析については、本時の目標について、相手意識が明確だったのでよかった。
- 実態分析を通して、最初子どもが付箋に書いているものを見て高められた。
- 1年生を相手にして考えていることがよかった。
- 実態分析の手立ては、この授業ではあまり見られなかったが単元を通して見られるのかなと思う。
- ワークシートに個人のことを書くのかグループのことを書くのかわかりづらかった。
- 最終形態の見通しがあるとよかったと思う。
- 国語的な書き方の授業になっていたような気がする。
- 模造紙に限定されていたけど、他にも選択肢があってよかったと思う。
- 「分かった」は生活科では難しいと思う。

指導講評

教科課程指導課 持木先生より

- ・生活科は幼稚園・保育園から小学校からの学びにつなげるための教科。幼稚園・保育園はどんなことをしているかを教師は把握するとよい。
- ・子どもたちは遊びから自然に気付いて、遊びながら学んでいる。子どもたちの気付きからの支援が大事。先生たちは、子どもたちが気付いたことを価値づけ、自然と思えるような環境づくりを行う。
- ・リーフレットにまとめる子、クイズをかいている子、地図をかいている子、目指したい姿がこの時点でできている。
- ・伝える相手は本当だったら単元の最初に伝えて授業のゴールを示した方が意欲の継続につながる。
- ・事前にパンフレットやポスターを作っている。もう1回作りなおすのではなく、ここまでできたよ、みんなはこの後どうしたい？と聞き気づいたことを表現してもらうことが大事。
- ・みんな素敵なもの、素敵な人がある。気付けた自分も素晴らしい。先生は地域の素敵について気付いた子をどんどん褒めることで、自尊感情も育ててほしい。
- ・体験と表現を何回も繰り返して、深い学びに結び付ける。短いスパンで繰り返す。
- ・子どもたちがどこを素敵だと思ったのか、発表して深めて、先生は価値づけてあげることが大切。
- ・地域のよさに友達同士で気付けると深い学びに繋がる。
- ・地域に思いをもって関わることのよさに気付いて、達成感を味わわせることが大事。自分が思ったことをやってみてよかったという経験が大事。これからの学習の基盤になる。
- ・単元に関わるデータを集めることが大事。

さいたま市教育研究所 白田先生より

- ・研究の目的をもって 研究を進めている。データを活用して、確かな学力の育成が目標。個別最適な学びと協働的な学びを実現する。データの活用はあくまで手段。
- ・「スクールダッシュボード」だけではなく、他のデータも活用できる。なので「スクールダッシュボード」が活用できるようデータを集めないと有効に使うことができない。
- ・昨年の1年生は、自尊感情が低いのと、地域の関わりが薄いので、それを生かして授業内容を検討した。データからわかることを授業づくりに生かすということが大事。
- ・「次の授業は楽しみではない」と答えた児童は何かしらで躓いている。
- ・どの場面でデータから分かったことをどのように活用するのか。指導案に明記することに取り組む。